

ズッキーニの栽培技術の確立

中山間地域においては水稻育苗跡ハウスの活用や水田転作地の高度利用が望まれており、さらに省力、軽作業に適する新品目の開発が求められている。そこで、平成11年度からズッキーニの品種選定や作型、さらに連続栽培法について検討したので紹介する。

1. 品種選定及び作型(平成11年度)

雨よけハウスにおける収量は緑系統の「ダイナー」、「ブラクツスカ」、「グリーンツスカ」が収穫本数2,952～3,204本/aで多く、黄色系統の「オーラム」、「ゴールドラッシュ」が2,141～2,160本/aで少なかった(第1表)。

生育、品質面では草丈が低く、誘引作業に優れ、曲がりが少ない「ダイナー」が良く、収量も優れる。ダイナーは生育後半の雄花数が少なくなるので雄花数が多い黄色系統の「オーラム」を一部組み合わせて混植すると良い。

作型は雨よけハウスが良く、トンネル、露地では気象災害を受けやすく不適であった。



第1表 ハウスにおける収量(収穫期間: 6月20日～8月31日、a当たり)

ダイナー	ブラクツスカ	グリーンツスカ	オーラム	ゴールドラッシュ					
本	kg	本	kg	本	kg	本	kg	本	kg
3204	607	2952	521	3007	524	2141	404	2160	387

2. ハウスにおける連続栽培試験(平成12年)

雨よけハウスでのズッキーニの栽培期間は、草丈、誘引作業の関係から、3～4ヶ月を要する。そこで、作期を早めて2作目は不耕起で栽培するの連続栽培を検討した。

第2表 施肥(2作分)

区名	肥料タイプ	施用量
基肥一発施肥	緩効性肥料180日タイプ	N: 4.0kg/a
慣行	苦土硫化燐安250+燐硝安加 S 646	N: 4.0kg/a
(2作分をそれぞれ分施)		

第3表 播種及び定植

作業	1作目	2作目
播種	4月24日	7月17日
定植	5月9日	8月1日

収量は1作目は両品種とも基肥一発施肥が良く、2作目は慣行が良かった。1作目は肥料タイプにかかわらず全面施用であり、2作目の慣行は局所施用となるため肥料の効きがよく初期生育が優れ収量に関係したと思われる。いずれにしても連続栽培は可能であると判断した(第4表)。

第4表 収量(kg/a)

区名	品種	1作目	2作目	合計
基肥一発施肥	ダイナー	439	471	910
	オーラム	283	280	562
慣行	ダイナー	393	547	940
	オーラム	242	336	578

3. 市場価格

平成11年の市場価格は平均383円/kgであった。平成12年は最高800円/kg、最低75円/kgで価格差が大きかったが、平均価格は315円/kgであった。1本150gとして47円/本、1作と2作の合計で1株から50本の収穫があるとして試算すれば260千円/aの粗生産額となる。
(高原農業部)